



資料 5

【様式第 1 号】

平成 27 年 6 月 18 日

三田市長 あて

提案者代表：梅澤 豊和

まちづくり提案書

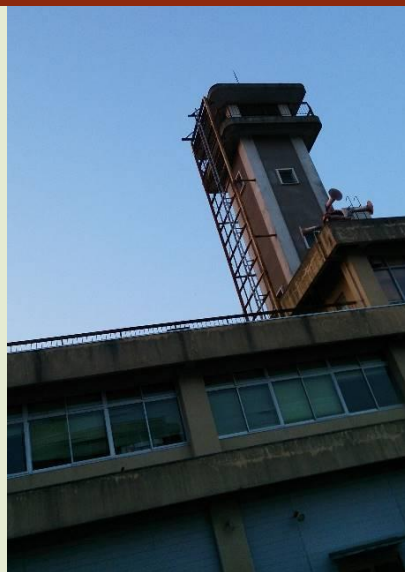
三田市市政への市民参加条例第 21 条第 1 項の規定により、別紙提案者名簿を添えて、次のとおり提案致します。

提案する政策の名称	「SANDAFIREプロジェクト」 ～旧消防署の再利用による、クリエイティブの拠点づくり～
現状及び課題	『三田に欠けているのは、創造力を集める場所』 壊される運命の旧三田消防署を外観そのままにクリエイティブなスペースとして再生させ、市民が集まり創造に溢れる街にする。
提案に係る政策の目的、趣旨	『交わる、創る、発信する』 さまざまな世代の人々が交流し、そこから生まれるアイデアや工夫が新しい三田を創っていく。 この繰り返しで街に個性を生み、活動が発信されることで知名度をアップさせ、新たな三田に住む人が増える。 地方創生に向けた提案や運営も担える人材を輩出する。
提案に係る政策の内容 (対象、手段等)	>対象：市民・高感度なファミリー層・アトリエを持ちたいアーティスト・女性など >手段：リノベーションした旧消防署を「SANDAFIRE」と命名し、人が集まれる交流スペース・企画をサポートする専門アドバイザーの常駐、市内で活動するアーティストのアーカイブ構築、定期開催のワークショップとギャラリー機能、イベントスペースなどを備えた三田の創造の拠点を構築する。
提案に係る政策の実施により 期待できる効果	>三田が持つ資産 (人)・・・陶芸、アート、デザインなどのクリエイティブな人材のネットワークを構築し、市民に向けたワークショップなどの学びの場を創出して市民に向けて還元し、内容を広く発信する。 (もの)・・・旧消防署を遺す事で三田の貴重な建築資産を守り、再活用することで、市民の文化的な視点形成と郷土愛を熟成する。 > (人) (もの) をネットワークで構築し、三田市のPRやクリエイテ

	<p>イブな政策提言にも繋げていく。</p> <p>▶ クリエイティブな情報を絶えず市民に向けて発信することにより、三田市オリジナルの文化創造都市を目指し他都市との差別化を図る。</p> <p>▶ 文化創造の拠点ができることで、文化の継承、リーダーの育成を行い次世代の人材を育てる。</p>
<p>提案に係る政策の実施に当たり必要な費用見込み (費目、内訳、金額)</p>	<p>◇耐震工事費：耐震診断による</p> <p>◇リノベーション費：耐震診断の結果・内部状況による</p> <p>◇運営委託費：1,500万円 (人件費・企画費・運営等)：</p>
<p>意見を述べる機会</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/>1 希望する      <input type="checkbox"/>2 希望しない</p>
<p>添付資料</p>	<p>資料添付 (PDF)</p>

# SANDA FIRE PROJECT

## クリエイティブセンター創出のご提案



SANDA FIRE PROJECT TEAM

## 【SANDA FIRE PROJECT 企画意図】

### ▶ 「世の中を動かすのは創造力あふれるクリエイティブな発想」

今までの三田に欠けていたのは、

**考える場所。交流する場所。創造力を集める場所。発信する場所。学ぶ場所。**

壊される運命の旧三田消防署を外観そのままにリノベーションし、クリエイティブセンターとして再生させる事で、三田に新たな創造力溢れる起点をつくる。

### ▶ 「**ByからWithへ**」

市役所主導から共に街を創る時代へ。

クリエイティブセンターから生まれるアイデアやプロジェクトが新しい三田を創り、繰り返す事で街に新たな個性を生む。

さらに発信されることで三田の知名度が上がる。

プロジェクトに関わった人が新たに三田に住み、新しい三田が時代とともに、常に生まれ変わっていく。

## 【三田の新たな循環型文化装置】

### ▶ 文化の知恵を結集し、交わり、考え、学び、実践する

アート・デザイン・建築・食・歴史・科学・文筆・POPカルチャー・書籍・雑誌・写真・演劇・芸能・音楽など、三田が持つありとあらゆる文化資産を集め、ライブ・トークイベント・ワークショップ・ギャラリー、セミナーなど、多様な文化プロジェクトを実施し、市内外に向けて発信する。

また、国内外のクリエイティブな人材も招聘し、様々な実験プロジェクトも試みる。

これらの刺激的な活動によって三田市は市内外から注目され、街は文化都市として熟成し、ふたたび市民に還元される。



## 【起点として旧消防署をリノベーション】

### ▶ 旧消防署が持つ背景

日本における消防の歴史を伝える資産である。

檜や拡声器などはデザイン性に優れ、クリエイティビティ溢れる建築物である。

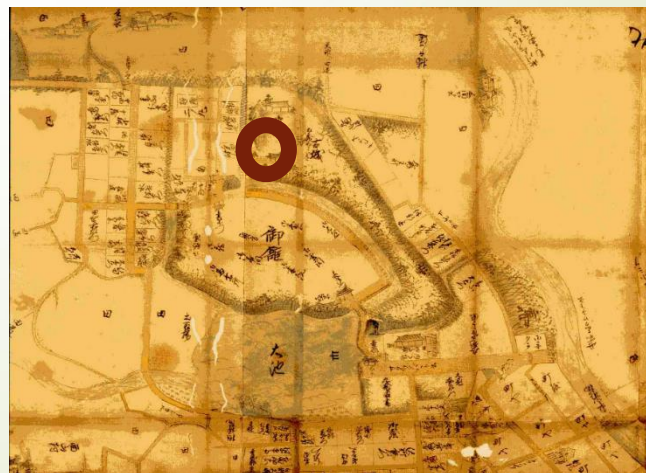
### ▶ 歴史的な立地と恰好の場所

旧消防署の立地は、元は三田の古城があった城域であり、門前町としても賑わった場所である。

三田市にとって歴史的な場所に人々が再び集まり、新たな創造が始まる。

アクセスも良く、市役所に近い事もWithの連帯感を生む。

※三田城古地図  
(河川改修等により推定)



## 【他都市でのリノベーション例】

各地で地域を象徴する歴史的建築物の保存運動が高まっている。

隣接する神戸市でも、旧生糸検査所をリノベーションし、デザインクリエイティブセンター神戸として再生させ、多くのクリエイターや若手企業家、市民や学生など、創造的な人材が日々集まり、新しいプロジェクトが次々に生まれ、街の活性化と情報発信に大きく貢献している。

- ▶ **デザインクリエイティブセンター神戸**  
年間来館者数（103,628人）※2013年度  
NPO法人与民間企業による合同運営

**KII+O:**  
DESIGN AND CREATIVE CENTER KOBE



▶ **自治体とNPOが連動した舞鶴市「赤レンガ博物館」**



明治時代に海軍省が建設し、兵器倉庫として使用されていた日本最古の赤レンガ建築であり、自治体と地元NPOがリノベーションを行い、地域の文化活動拠点に変えた事で注目される。

▶ **民間運営の東京都江東区「ギフトラボ・ガレージ」**



築80年（1933年施工）を経た集合住宅の魅力を活かしながら、セルフリノベーションで注目を浴びた「ギフト・ラボガレージ」。現在は、カフェやギャラリー、デザインスタジオ、ショップとして運営し、人が集まり交流するスペースとなっている。



## 【クリエイティブセンターの主な機能】

### ▶ 専門家によるサポート機能

専門スタッフが常駐しプランニングや運営など、多岐にわたるサポートを行う。

### ▶ 可視化する為のレンタルスペース機能

イベントやワークショップ、セミナーやギャラリーなどに対応できるスペースを常設し、クリエイティブな発信の場を創る。

### ▶ 発想を誘うミーティングスペース機能

デザインされたミーティングスペースを常設し、創造に相応しい場所を提供する。

### ▶ アーカイブ・パブリシティ機能を持った「ラボ」

世界、日本、三田で発信されるクリエイティブな情報をアーカイブするとともに、三田におけるクリエイティブな活動の歴史を整理し、新たな活動をWEB・ニュースリリースなどを活用して常時発信を行う。

また、三田を中心に活動を行う人材や団体をネットワーク化する。

### ▶ CreativeCafe「Fire」の運営

人が集まり交流するカフェを併設し運営する。

### ▶ フィルムオフィスの併設

### ▶ プランニング・デザイン機能の併設

## 【主なコンテンツ案】

### ▶ **SANDASessionの開催**

三田市在住のクリエイターや文化人、団体を招き、三田市における活動情報の共有とネットワークの構築を図る。

### ▶ **CreativeSessionの定期開催**

各界のクリエイティビティにあふれた人材を招き、少人数でのThinkセッションを定期開催する。

### ▶ **CreativeSeminarの定期開催**

デザイン・アート・写真・プレゼンテーション・ファシリテーションなど、子供から学生、社会人まで、幅広く体験が出来る、学ぶ企画と場所を提供する。

### ▶ **プロの視点を交えた地域のこどもの絵画展や写真展、企画展等の開催**

プロの視点で審査やアドバイスを行う、本格的な展覧会やコンクールを実施し、本物に触れる貴重な場を創出する。

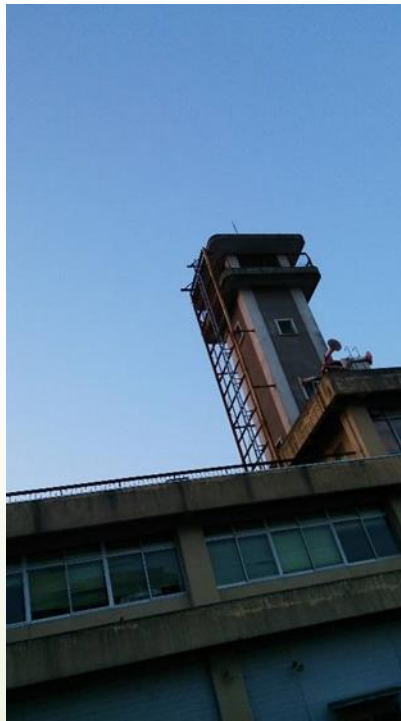
また、新たな人材を輩出する地盤づくりも行う。

### ▶ **現代アートの世界inSANDA FIRE**

枠を超えたさまざまな作品を紹介し、観て触れる展覧会を定期開催する。

## 【運営案】

- ▶ **運営費用＝年度：1.500万円（税別）**
- ▶ **専門（企画・広報・プロデュース他）の常駐スタッフを置き、次世代の人材育成も行なう**
- ▶ **運営費用は三田市の予算を想定**



# SANDA FIRE PROJECT

## クリエイティブセンター創出の効果フロー

